

6 附属池田中学校 令和3年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果(その1)

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標		人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる生きる力に満ちた生徒の育成を図る。					
学校教育計画		1. 共同研究「社会とつながり明日を切り拓く資質・能力の育成 ～自ら伸びる 気づきを促す 評価の在り方～					
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)学習指導要領改訂を踏まえた共同研究の推進	各教科領域において、小学校・高校と連携を図り、授業づくりを中心とした交流を行う。また、研究協議会の充実を図る。	・教科によって若干の温度差はあるものの、小中高合同教科領域部会の場を設定し、議題について研究部の方から極力早めに通達することにより、各教科・領域で話し合いの場を持つことは定着できていると感じる。	・共同研究といながら音楽・美術(図工)が中学校のみで実態がない。また英語が必修になったにもかかわらず小学校から英語科が出ないことなど中学校の教員からしてみれば体制そのものについて疑問点が多い。研究主任でどうにかできるレベルのことではない。	B	研究会の参加者が少なかつたのが気になる。一般校と本校との温度差があるので残念だ。研究協議会について、もっと公立校の管理職や教育委員会とも連携を取っていただきたい。	B	教育委員会等をお願いをし、連携を取らせていただく中で、研究会をもっと魅力的なものにできるように努力する。来年度は、再度、研究会の在り方自身を見直すようにする。
(2)各教科・領域における評価(評価規準・評価基準)研究	各教科において、カリキュラムづくり・授業づくりと関連付けた評価研究を行う。	・IBコーディネーター・教務主任の尽力により、IBの評価については教師生徒とも以前よりも理解が深まったと思われる。各教科の特性を踏まえたパフォーマンス課題の設定なども、ルーブリックを示し、計画的に行われていた。	・評価研究＝難しいこと、大変なことという意識を払拭するにはまず、中学校の教員の意識を変えていかねばならない。少なくとも自分たちが実施している評価については説明責任があることを折に触れ研究部からも発信していきたい。	B	コミュニティプロジェクトについては、大変良かったと言える。保護者としては、進路が大きくあるので、IBそのものや学習評価についてはなかなか理解していただけない。評価についての不透明性が大きいので、何とかしてほしい。	B	発信をすることが大切である。IB教育を受けた生徒の生の声を聞く講演会が必要ではないかと思う。

学校教育目標		人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる生きる力に満ちた生徒の育成を図る。					
学校教育計画		2. 授業力の向上					
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)国際バカロレア教育の推進及び研究	・教員へのIB校内研修の計画・運営 ・教員へのIB公式研修への参加・認定の経過 ・入試説明会でのIB説明 ・コミュニティプロジェクトの見直しと充実 ・評価訪問に向けての準備	・IB公式研修へは夏休み中に各教科参加してもらい、認定を受けられた。 ・校内研修を定期的に行い、IB教育自体やユニットプランナーの書き方等について共通認識を図れた。 ・CPについては、評価方法等再度検討し、一定の型を作ることができた。	・在校生保護者へのIB教育の説明や生徒へのIB教育の説明ができなかったため、来年度は保護者会やIB説明講座を設け、IB教育に対する理解を図る。 ・研修はしたものの、教員のIB教育への取り組みに差があることが保護者への不信感につながっているため、教科会議や教育的会議を開くことで、来年度は全教員IB教育に取り組む。	C	コミュニティプロジェクトの成果については、年々充実していると感じた。また、コミュニティプロジェクトの評価を作成したということは評価できる。	B	IB教育について、保護者理解をさらに進める必要がある。コロナ禍ということもあり、どのような形で実施できるかは未定ではあるが、保護者集会や年度当初のPTA総会等でもIB教育について理解していただける機会を持つようにする。

学校教育目標		人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる生きる力に満ちた生徒の育成を図る。					
学校教育計画		3. 安全・安心な学校づくり					
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)安全教育カリキュラムの確立	総合的な学習の時間に位置付けたカリキュラム ・外部機関と連携した教育実践	総合的な学習の時間に探究的な安全教育を各学年で実施。1年生【災害安全】、2年生【生活安全】、3年生は個人個人で選択しての探究活動を行う。1・2年生は系統的に進められている。企業や公的機関と連携し、学校と地域や社会を結びつけた教育プログラムを実践することができた。	3年生の総合は、12月現在では他の学習内容が長引いた結果、現在まではまだ取り組めていない。3学期に取り組み予定だが、年度当初に時間数を確定させておき、計画的に進める必要がある	B	ある程度の評価はできると思う。	A	総合の時間等を用い、3年間を見据え、系統立てて取り組むということを今後継続する。
(2)SPS校としての取組の充実と国内外への発信	・校内の救命講習の実施(生徒・保護者) ・学会やセミナーでの発表 ・HPの充実 ・ヒヤリハットシステムの運用、活用	大学教授と連携し、ヒヤリハットシステムの運用をはじめることができた。また、教師、生徒の安全に対する意識や知識・技能の向上につながる、救命講習の実施を行った。また、毎回の安全に関する取り組みは、HPを通じて常に発信し続けている。さらに、安全教育学会やSPSセミナーでの発表も行った。	普及員は今年度も4名取得し、10名となった。100%になることを目指していきたい。また、今後も生徒への救命講習は継続して行い、生徒の意欲や知識・技能をさらに高め続けたいと感じている。改善というよりは継続することを大切にしたい	A	ヒヤリハットのデータベースを生徒会で作成している。大変すばらしいことであると評価できる。	A	ヒヤリハットのデータベースについて、保護者や生徒に公表したり、また還元したりすることを実施できれば考える。その方法については、今後の検討課題である。
(3)安全管理の見直し・充実	・キャンパスクリーン ・訓練前後の振り返りの充実 ・毎月の安全点検の実施	キャンパスクリーンを保護者、教員、生徒と協力して取り組んでいる。毎回の避難訓練の映像を記録として残す。また、映像だけでなく振り返りも教員、生徒に実施し次の訓練に必ずいかしている。	映像編集や振り返りを行うことで、教員、生徒の意識はかなり高まった。ただ、編集作業等は安全主任が全て行ったこともあり、安全委員会として分担しながら進めていく必要がある。次年度は年度当初に分担を行い、分散的リーダーシップの育成に努めたい。	A	年間5回程度の訓練を実施している。子どもたちが真剣に取り組んでいる現状は、素晴らしいと思う。	A	安全を柱としている学校である以上、現状に満足することなく、教員も生徒も、そして保護者も一緒に安全教育に取り組める体制を今後も構築していきたいと考える。

6 附属池田中学校 令和3年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果(その2)

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる生きる力に満ちた生徒の育成を図る。						
学校教育計画	4. 自主・自律の精神の涵養と様々な他者との人間関係を深める取組の推進						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
自主・自律の精神の涵養と様々な他者との人間関係を深める取組の推進	国際枠生徒懇談会	概ね達成できている。	文化祭への発表に向けての活動は活発にできているが、それ以降の活動が十分にできていないため、活動の目的を設定しながら国際枠生徒同士の結びつきを継続して保つことができるようにする。	B	帰国子女、外国籍の子どもたちが、生き生きと文化祭等で発表していた。これは、日頃の先生方の子どもたちにかかわる姿勢が大きく影響していると思う。今後も、期待したい。	A	帰国子女や外国籍の子どもたちの受け入れ人数を増やすことも視野に入れ、そのような子どもたちの学習面のサポート、心理的なサポート等に取り組める環境づくりを行いたい。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる生きる力に満ちた生徒の育成を図る。						
学校教育計画	5. 生徒との信頼関係を基にした内面に迫る生徒指導、規範意識の向上と生活規律、学習規律の徹底、いじめや不登校への対応						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
生徒との信頼関係を基にした内面に迫る生徒指導、規範意識の向上と生活規律、学習規律の徹底、いじめや不登校への対応	SCと打ち合わせ(週1)、メンタルサポート会議(月1)を行い、登校支援が必要な生徒の把握、状況の改善に務める。	忙しい中で会議をもち、現状把握、担任へのリターンなどを行っているが、支援する生徒の数が多く、把握だけで終わる場合もある。担任以外で係る立場として、できることをこれからも考えていく。	教育相談室にWi-Fiの環境がなく、状況の把握がアナログになる。改善すればもっと生徒支援の時間を確保できるかと思う。	A	不登校等については、子ども家庭センターやカウンセラー等と連携を取りながら取り組んでいただいているので、よかったです。しかし、教育行政との連携をとりながら進めていくようにすればいいと思う。力を入れてほしい部分である。	A	不登校生については、校内体制の構築、さらには外部の関係諸機関との連携は欠かせないものである。特に、教育委員会等の教育行政や市役所の行政機関との連携を今後は行っていきたい。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる生きる力に満ちた生徒の育成を図る。						
学校教育計画	6. 教育実習の充実						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
教育実習の充実	教科指導や学級指導において、指導教員を中心に個々の教育実習生の課題を把握し、各教科・実習部・管理職・大学と協力体制をとる。	コロナ禍ということもあり、実習が4期に分かれている。非常に多忙な中、多くの先生方にご尽力いただいた。各教科もそれぞれが丁寧に指導いただいている。大学側の教員との連携の進捗具合が教科によってはあるが、少しずつ進めていただいている。各教科の先生方から実習生の課題等多くご意見をいただいたことで、実習主任として状況把握ができていく。	教科によって指導に差があることや、実習生の資質能力意欲の差、授業時数の差などの課題がある。IB認定校として先生が多忙な中、教育実習を充実させるためには業務の精査が必要だと感じる。しかしながら附属学校園として、実習生にとってよりよい実習になるよう努める義務を忘れてはならない。	A	大学の学生の資質については、大学が実習前に指導する問題である。大学としても実習前、実習中、実習後の指導も丁寧にを行う必要がある。	A	現状通り、未来の教員を育てるといった信念で、教育実習生の学生指導を真摯に行う。また、その中で、大学との連携も今まで以上に行う必要がある。今後も、現状に甘んじることなく、取り組んでいきたい。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる生きる力に満ちた生徒の育成を図る。						
学校教育計画	7. 適切な組織運営、開かれた学校づくり、保護者・地域との連携						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)保護者・地域との連携	・登下校指導 ・保護者連絡のICT活用 ・PTA行事による保護者との連携	・地元地域の方へ迷惑をかけない為の、保護者、教師による登校指導。 ・ミマモルメやHPを活用した保護者連絡。動画での進路や学習の説明会の運営。 ・クリーンデーなどPTA主催の活動の実施。ビデオ通話での保護者会の実施。	・登下校については、限られたマンパワーでできる限りの指導を行っている。 ・ミマモルメの配信数が多くなっているのので、配信のルール作りがあるとわかりやすい。 ・行事の動画配信などは評価をいただいているが、職員の負担にならない運営方法。	B	学校関係者が毎日通学路にて立ってくださったことに感謝している。PTAのクリーンデーなども保護者が沢山参加してくれているようなので、よかったと思っている。	A	登下校の安全の立ち番については、池小事件からの安全の取組みということを保護者に周知できていない。それも含めて、来年度からは、なんらかの形で保護者にも理解していただけるような機会を設ける。
(2)責任ある校務分掌の遂行	・重点委員会の設置	・これまでの校務分掌で補いきれなかった、IB教育関係、学校安全関係、ICT関係の業務を、重点委員会として専属の組織化を行った。その結果、3分野では例年以上に、活動が行えている。	・新しい分掌の設置により、会議の増加、仕事の増加になっている。業務に優先順位をつけ、意図的に減らすことが必要。また、できる限りICTの活用と外部委託による仕事量の軽減が必要。	B	意欲的に、学校の重点目標を達成するための組織を作り、そこで運営をしていることは良いと評価できる。	A	公立学校のようにICT関係等においても外部委託できるようになれば、もっと教員の負担も減るのでよいと言える。
(3)開かれた学校づくりの推進	・動画による進路講話、学習説明会の実施。 ・進路を考える会の実施。 ・学校説明会の実施	・コロナ禍で保護者の説明会の実施が難しい中、動画配信にて実施した。 ・卒業生を招いての「進路を考える会」を実施し、多様な進路先を提示できた。 ・入学希望者へ向けて、オンラインでも対面でも学校説明会を実施した。	・在校生の保護者に対しての説明の機会を増やすことが必要と考えられる。 ・1、2年生から、客観的な進路情報の提示があると、さらに保護者は理解しやすいと考えられる。 ・附小生への学校説明会が必要。	B	附小生へ「中学校がどのようなことを教育の柱として具体的に実施しているのか」をもっとアピールできたら、附小から中学校への受験希望者も増えるのではないかと。	B	現状の附小生に対する学校説明会だけではなく、説明会開催の回数を増やしたり、説明する学年を広げるなど、中学校としてできる範囲で努力する。
(4)学校評価の充実	・学校評価アンケートの実施	・学校評価アンケートを実施した。ICTを活用することで、処理の負担軽減を行いながら実施することができた。	・年度当初の学校経営方針の提示の際に、学校評価アンケートも併せて作成する必要があると考えられる。	C	学校アンケートのアンケート項目の作成の難しさもあるが、アンケート項目についてはよく検証する必要がある。しかしながら、Googleフォームを用いたアンケート方法は評価できる。	B	アンケート項目の内容を、今一度精査する必要がある。その場合、保護者が答えやすい内容項目で、かつ、学校としても必要な内容であるように作成する。